



探訪 長門のい（おみ） ⑤



鷲頭弘忠顕彰碑

深川湯本殿台、核山をのぞむ瑪瑙橋の西
たもと近くに、昭和四十九年（一九七四）、
この碑が建てられた。

（碑文）

長門守護代

鷲頭弘忠公

を偲ぶ

昭和四十九年

殿台老人クラブ

碑文の書者は、大寧寺五十二世志岐實翁
禪師。傍らには、この碑の主人公である鷲
頭弘忠を顕彰する説明板が設置されてい
る。施主は、殿台老人クラブ。

鷲頭氏の始

祖は、大内氏

十六代盛房の

三男・盛保で

ある。当時、

都濃郡鷲頭庄

（現、下松市）

を領有する豪

族であった。

応永（一三九四）の始めごろ鷲頭氏は、

京都・三条家の領地であった深川庄の代官

に任命され、当地とかかわりを持つようにな

った。弘忠は、永享三年（一四三二）に

大内氏の当主となった持世（二十七代）の

信任が厚く、同四年、長門守護代（守護

職・大内氏の代官）となった。

弘忠は居館を殿台の地に構え、背後の核

山に山城（深川城Ⅱ「核の要害」とも）を

築いて治世にあたった。在任中に大寧寺を

創建し、飯山八幡宮社殿の修築も行った。

また妙現社（湊）を勧請するなど、地域の

安定に貢献したものとされる。

しかし、鷲頭氏の台頭を警戒する主家の

大内教弘（二十八代）により、突然、長門

守護代を解任された。文安五年（一四四八）

二月十七日、教弘の大軍に攻められた弘忠

は、嫡男弘貞をはじめ一族従臣とともに深

川城で討死した。今から約五百五十年前の

（正）

（寄稿・長門市郷土文化研究会）



こちら 119

春季全国火災予防運動
3/1～3/7の間

空気が乾燥し風の強い日が続くこの季節、毎年のように山火事が多発しており、その原因のほとんどは田のあぜ焼きやたき火の不始末、たばこのポイ捨てによるものです。乾燥した山林にいったん火が移ると、あっという間に燃え広がり被害が大きくなります。

火の扱いには一人ひとりが十分注意し、郷土の美しい自然を守りましょう。



山火事注意報発令!!

長門地区消防本部・中央消防署 22-0119
火災時の問い合わせ 22-1414
ホームページアドレス
<http://member.hot-cha.tv/~htb20504/>